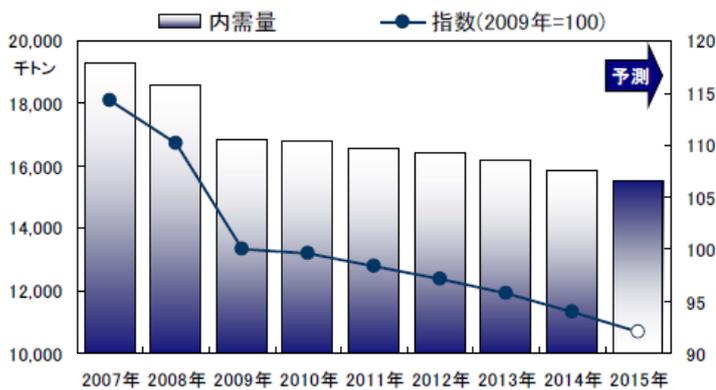


製紙産業の将来と 富士市の明日 —新素材ナノセルロースが 紙のまちを変える—

紙のまちとして 100 年を超える歴史を刻んできた富士市は、家庭紙から産業用紙に至るまで幅広い用途の紙の生産を誇ってきました。

しかし、急速なペーパーレス化の進展により、国内の紙需要は減少傾向にあります。



紙合計の 2015 年需要予測 日本製紙連合会ホームページより

製紙産業が持続的成長を続けていくためには、事業構造の転換が必要であり、それには製紙産業が保有する技術を最大限活用することが求められています。

その展開の一つとして、森林バイオマスの利活用技術があります。製紙産業が蓄積してきた技術を活かし、高機能材料や機能化学品製造の事業を創出するものです。

私は、11 月定例会の一般質問では、富士市の産業支援の在り方の一つとして、この新素材について言及しています。



樹木とセルロースナノファイバーの関係 日本製紙ホームページより

セルロースナノファイバー(CNF)と言われる新素材が、もっとも注目される技術として、北欧、北米、そして日本で、その研究と技術開発が進められています。セルロースナノファイバーとは、木質組織を化学的、機械的に処理してナノ(10⁻⁹)サイズまで細かく解きほぐした極細繊維状物質を言います。



CNFの特長と用途 日本製紙ホームページより

今年1月29日、富士市において、『CNF(セルロースナノファイバー)産業振興セミナー』が静岡県企業局の主催により開催されました。まさに、『21世紀の紙』が、富士市を「21世紀の紙のまち」へと大転換させる時です。